

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当第2四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績の分析は、以下のとおりであります。なお、文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災からの復興需要を中心として国内需要は回復基調にありましたが、円高の長期化、欧州の金融不安などにより不安定な状況が続いております。

当社グループの属する医療業界におきましては、診療報酬が増額改定された影響で大型病院を中心に収益が改善する一方で、薬価・償還価格の引き下げにより医薬品や医療機器の価格下げ圧力は厳しい状況が続いております。また、「社会保障と税の一体改革関連8法」が成立し、平成27年10月には消費税率が10%までに引き上げられる見通しとなるなど、将来の社会保障費増大に対する財源の確保が課題となりました。

このような経済状況の下、当社グループにおきましては、多数の大型のプロジェクト案件が第2四半期までに売上計上されるとともに、自社製品の販売が堅調に推移いたしました。一方で、薬価及び償還価格の引き下げにより、医薬品、循環器系デバイスの販売については厳しい状況で推移いたしました。また、介護施設運営におきましては、既存7施設が順調に推移したものの、昨年M&Aを行った介護施設が構造改革中である影響を受けるとともに、新たな投資に伴う先行費用が発生いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は107,808,997千円（前年同四半期連結累計期間比32.9%増）、営業利益は6,751,625千円（前年同四半期連結累計期間比56.4%増）、経常利益は7,284,223千円（前年同四半期連結累計期間比47.6%増）、四半期純利益は4,406,538千円（前年同四半期連結累計期間比46.5%増）となりました。

セグメントごとの業績を示しますと次のとおりであります。

①トータルパックシステム事業

トータルパックシステム事業におきましては、大型のプロジェクト案件の売上計上が例年に比べ第2四半期までに集中したこと、特殊浴槽や无影灯、手術室の内装・医療ガス配管などの自社製品の販売が想定以上に好調であったこと等から堅調に推移いたしました。

この結果、売上高は39,567,526千円（前年同四半期連結累計期間比49.1%増）、セグメント利益（営業利益）は5,010,526千円（前年同四半期連結累計期間比112.9%増）となりました。

②メディカルサプライ事業

メディカルサプライ事業におきましては、岩手県立26病院における院内S P D業務を受託し順次稼働するなど、取引数量の拡大及び効率化が進捗する一方で、償還価格の引き下げにより循環器系デバイスの販売は厳しい状況が続きました。

この結果、売上高は50,827,572千円（前年同四半期連結累計期間比18.2%増）、セグメント利益（営業利益）は879,990千円（前年同四半期連結累計期間比0.9%増）となりました。

③ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、昨年12月に実施した老人ホーム・グループホーム運営会社のM & Aにより施設数が増加したことに加え、食事提供施設の展開が進んだことにより売上高は拡大いたしました。一方で、M & Aを行った介護施設が構造改革中であることの影響を受け、利益は低調に推移いたしました。また、千葉県白井市に小規模多機能施設「リハモードヴィラ白井」をグランドオープンしたこと、デイサービス事業の新規展開を行ったことから先行費用が発生いたしました。

この結果、売上高は9,264,111千円（前年同四半期連結累計期間比143.7%増）、セグメント利益（営業利益）は325,523千円（前年同四半期連結累計期間比42.6%減）となりました。

④調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、新規店舗出店が進んだことにより売上高は拡大いたしました。一方、薬価改定や医薬卸との交渉が厳しい状況にあることで利益確保が難しい状況が続きました。このため、グループの調剤薬局が一体となって経営効率化を図ってまいります。

この結果、売上高は7,635,831千円（前年同四半期連結累計期間比5.2%増）、セグメント利益（営業利益）は696,421千円（前年同四半期連結累計期間比11.2%減）となりました。

⑤その他

その他におきましては、動物病院事業が順調に推移いたしました。また、理化学機器の販売も計画どおり進捗し、利益率も改善いたしました。

この結果、売上高は513,955千円（前年同四半期連結累計期間比0.6%減）、セグメント利益（営業利益）は78,109千円（前年同四半期連結累計期間比3.2%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産は130,876,395千円となり、前連結会計年度末と比べて886,750千円増加いたしました。その主な要因は、受取手形及び売掛金が7,844,693千円減少した一方、現金及び預金が7,650,359千円、建物及び構築物が939,033千円増加したこと等によるものであります。

負債は92,430,198千円となり、前連結会計年度末と比べて2,303,134千円減少いたしました。その主な要因は、支払手形及び買掛金が943,301千円、社債が582,000千円、長期借入金が371,300千円減少したこと等によるものであります。

純資産は38,446,197千円となり、前連結会計年度末と比べて3,189,885千円増加いたしました。その主な要因は、配当金の支払により利益剰余金が1,443,984千円減少した一方、四半期純利益により利益剰余金が4,406,538千円増加したこと等によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末の自己資本比率は28.9%（前連結会計年度末比2.2ポイント増）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは10,846,402千円の収入（前年同四半期連結累計期間比4,874,188千円収入増）となりました。その主な要因は、法人税等の支払額が2,319,760千円あり、仕入債務が943,301千円減少し、たな卸資産が691,255千円増加した一方、売上債権が7,844,693千円減少し、税金等調整前四半期純利益を7,151,894千円計上したこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは1,117,701千円の支出（前年同四半期連結累計期間比2,298,840千円収入増）となりました。その主な要因は、長期貸付金の回収による収入が895,842千円、定期預金の払戻による収入が721,750千円あった一方、有形固定資産の取得による支出が1,487,702千円、定期預金の預入による支出が680,505千円、短期貸付けによる支出が391,121千円あったこと等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは2,089,286千円の支出（前年同四半期連結累計期間比6,391,674千円収入増）となりました。その主な要因は、長期借入れによる収入が2,400,000千円あった一方、長期借入金の返済による支出が2,969,825千円、配当金の支払額が1,443,984千円あったこと等によるものであります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べて7,632,869千円増加し、22,003,973千円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は171,478千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動に重要な変更はありません。